

各 位

三重県病虫害防除所

令和 8 年度病虫害発生予報第 1 号

このことについて、下記のとおり発表します。

I 予報の概要

農作物名		病 害 虫 名	発生量 (平年比)	発生時期 (平年比)	記載 ページ	備考	
作物	イネ	イネミズゾウムシ	やや多	早	2		
	コムギ	赤かび病	多	早	2		
果樹	カンキツ	そうか病	平年並	—	3		
		かいよう病	温州 平年並 中晩柑 やや多	—	3		
		ミカンハダニ	平年並	—	4		
	ナシ	黒星病	平年並	—	5		
		赤星病	平年並	—	5		
		ハダニ類	平年並	—	6		
		アブラムシ類	平年並	—	6		
	果樹共通	カメムシ類	やや多	—	7		
	茶	チャ	カンザワハダニ	やや少	—	8	
			チャノホソガ	やや少	—	8	
チャノキイロアザミウマ			やや少	—	9		
クワシロカイガラムシ			やや多	—	9		
チャノコカクモンハマキ			やや少	—	10		
野菜	イチゴ	ハダニ類	平年並	—	11		

問い合わせ先
三重県病虫害防除所
TEL 0598-42-6365
FAX 0598-42-7568
E-mail byogai@pref.mie.lg.jp

II 予報

イネ

1 イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
	平年比	程度		平年比	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬
やや多	早	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み (+)
- 2) 予察灯(水田・松阪市)の初飛来は4月11日(平年4月25日) (-)
- 3) 予察灯(水田・松阪市、昨年7月第1半旬から9月第2半旬)では、誘殺数は179頭(平年97頭)と多 (+)
- 4) 巡回調査ほ場(昨年8月)では、発生ほ場率は7.5%(平年4.5%)と多、払い落とし虫数は0.17頭(平年0.07頭)と多 (+)
- 5) 予察灯の調査結果から、越冬成虫の予想発生量はやや多と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 近年、実害は少ないですが、移植後の発生状況に応じて防除してください。
- 2) 常発ほ場では、箱施用剤による予防を行ってください。

コムギ

1 赤かび病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
	平年比	程度		平年比	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬
多	早	大	高				

(2) 予報の根拠

- 1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み (+)
- 2) 降雨日に開花期を迎えたほ場が認められた(+)
- 3) 県予察ほ場(11月14日播種・品種あやひかり・松阪市)では、出穂期は3月28日(平年4月2日)と平年より早い(-)
- 4) 一般ほ場では、出穂期は平年より早い状況 (-)
- 5) 予想発生量は多と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 県予察ほ場(11月14日播種・品種あやひかり・松阪市)では、4月8日(平年より6日早い)に開花期を迎えています。また、播種が遅いほ場でも平年より開花が早まっています。ほ場をよく観察して、開花始めから開花期に薬剤を散布してください。開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。
- 2) 2回以上の防除を基本とし、2回目防除は1回目防除の7から10日後に行ってください。

カンキツ

1 そうか病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
	平年比	程度		平年比	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬
平年並	-	小	低				

(2) 予報の根拠

- 1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み (+)
- 2) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、旧葉発病度0.03(平年0.03)と平年並(±)
- 3) 一般ほ場での発生量は平年並(±)
- 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。
- 2) 新葉に病斑が見られるほ場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。

2 かいよう病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
	平年比	程度		平年比	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬
温州 平年並	-	温州 小	温州 低				
中晩柑 やや多	-	中晩柑 中	中晩柑 普通				

(2) 予報の根拠

- 1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み (+)

- 2) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、温州みかんで旧葉発病度0(平年0.02)で平年並の傾向(±)、中晩柑類で旧葉発病度4.4(平年2.4)でやや多(+)
- 3) 一般ほ場での発生量は平年並(±)
- 4) 現状の発生量は温州みかんで平年並、中晩柑類ではやや多と考えられ、引き続き予想発生量は温州みかんで平年並、中晩柑類ではやや多と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 越冬病斑が見られるほ場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。
- 2) 越冬病斑が多いほ場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、ほ場外で処分してください。
- 3) 3から4月に防除を実施していないほ場では、5月に防除を実施してください。

3 ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
				4月		5月	
	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	中	普通	成ダニ密度			

(2) 予報の根拠

- 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み(+)
- 2) 県予察ほ(御浜町、興津早生、4月中旬)の寄生虫数/葉は無防除区1.1頭(平年28.2頭)と少、慣行防除区1.1頭(平年4.0頭)と少(-)
- 3) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、寄生葉率0%(平年3.4%)と少、寄生虫数/葉は0頭(平年0.24頭)と少(-)
- 4) 一般ほ場では、発生量は少から平年並(±)
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 冬期にマシン油剤等を散布していないほ場では、新梢伸長期に発生が急増することがあるので注意してください。
- 2) 発生量はほ場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。
- 3) 成虫が1葉当たり0.5から1.0頭になったら防除を計画してください。

ナシ

1 黒星病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
				4月		5月	
	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	小	普通	発病程度			

(2) 予報の根拠

- 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み(+)
- 2) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、発病芽率0%(平年0%)と平年並(±)
- 3) 一般ほ場では、発生量は少(-)
- 4) 現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 昨年の発生が多かったほ場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。
- 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。

2 赤星病

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率	発生消長の一例			
				4月		5月	
	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	小	普通	ビヤクシン類の冬孢子発芽率			

(2) 予報の根拠

- 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み(+)
- 2) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、発病葉率0%(平年0%)と平年並(±)
- 3) 一般ほ場では、発生は認められない(-)
- 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が4月頃の雨滴によって飛散し、ナシに感染します。
- 2) 例年発生するほ場や発生が確認されたほ場では早めに防除してください。

3 ハダニ類

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量 程度	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比			4月			
				下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み（+）
- 2）巡回調査ほ場（4月第2週）では、寄生葉率0%（平年0.3%）とやや少の傾向（-）
- 3）一般ほ場では、発生量はやや少（-）
- 4）現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件から予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1）発生が見られるほ場では、低密度のうちに防除してください。

4 アブラムシ類

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量 程度	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比			4月			
				下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

- 1）1 か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み（+）
- 2）巡回調査ほ場（4月第2週）では、寄生枝率0%（平年0.07%）と少（-）
- 3）一般ほ場では、発生量はやや少（-）
- 4）現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1）初期の寄生を見つけることが重要です。
- 2）寄生葉付近はアリが活発に活動していることがあるので、発見の目安になります。

果樹共通

1 カメムシ類

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量 程度	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比			4月			
				下旬	上旬	中旬	下旬
やや多	—	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1）予察灯（御浜町、4月1日から10日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ449頭（平年5.5頭）と多、ツヤアオカメムシ1258頭（平年76.3頭）と多（+）
- 2）予察灯（畑・松阪市、4月第1から3半旬）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ3頭（平年0.2頭）と多、ツヤアオカメムシ0頭（平年0.1頭）とやや少（±）
- 3）県予察ほフェロモントラップ（御浜、4月1から10日）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は17頭（平年2.8頭）と多、ツヤアオカメムシ5頭（平年2.3頭）と多（+）
- 4）フェロモントラップ（4月第1から2週）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地（津市白山町川口）3頭（平年9.7頭）と少、中間地（津市白山町二本木）13頭（平年18.1頭）とやや少、平地（松阪市嬉野川北町）5頭（平年0.5頭）とやや多（±）
- 5）チャバネアオカメムシの越冬量は、4.6頭/地点（平年2.6頭）と多（+）
- 6）巡回調査ほ場（4月第2週）では、カンキツほ場へは未飛来（-）
- 7）越冬個体数は多と考えられ、今後の予想発生量はやや多と考えます。

(3) 防除対策

- 1）山林に近いほ場や過去に多数飛来があったほ場では、飛来に注意してください。
- 2）果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。
- 3）防除はほ場及びほ場周辺（街灯への夜間飛来など）への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。
- 4）一旦飛来すると連続して飛来することが多いので、防除実施後も注意してください。

チャ

1 カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比	程度		5月			
				4月 下旬	上旬	中旬	下旬
やや少	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い予想（+）
- 県予察ほ（亀山市、4月上旬から中旬）では、寄生葉率2.0%（平年9.9%）は少、寄生頭数0.08頭/葉（平年1.40頭/葉）も少（-）
- 巡回調査ほ場（4月第1週から第2週）では、発生ほ場率22.2%（平年60.0%）と少、寄生葉率2.0%（平年8.5%）と少、寄生頭数0.16頭/葉（平年0.54頭/葉）と少（-）
- 一般ほ場では、発生量は少（-）
- 現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。

(3) 防除対策

- 1 一番茶摘採後ほ場を確認して、多発状況であれば摘採前日数に注意して防除してください。
- 2 葉裏に生息していますので、葉裏に十分かかる様に薬剤を丁寧に散布してください。
- 3 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。
- 4 天敵への影響が小さい薬剤を選択してください。

2 チャノホソガ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比	程度		5月			
				4月 下旬	上旬	中旬	下旬
やや少	—	小	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い予想（+）
- 県予察ほ（亀山市）では、フェロモントラップ（3月第4半旬から4月第3半旬）では誘殺数251.2頭（平年1,403.5頭）と少（-）
- 巡回調査ほ場（4月第1週から第2週）では、巻葉数0.0枚/m²（平年0.08枚/m²）と平年並の傾向（±）

4) 一般ほ場では、発生量は少（-）

5) 現状の発生量は一般ほ場を重視して少と考えられますが、今後の気象条件を考慮し予想発生量はやや少と考えます。

(3) 防除対策

- 1 新芽に産卵します。若齢幼虫の多発が認められたほ場では防除してください。

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比	程度		5月			
				4月 下旬	上旬	中旬	下旬
やや少	—	小	低				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い予想（+）
- 県予察ほ（亀山市、4月第1から3半旬）では、黄色粘着トラップ捕殺数27.5頭（平年70.1頭）と少（-）
- 巡回調査ほ場（4月第1週から第2週）では、叩き落とし虫数0.1頭（平年0.3頭）とやや少（-）
- 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。

(3) 防除対策

- 1 新芽の葉柄基部や未展開葉の内側などを吸汁加害します。
- 2 新芽の伸長と共に発生量が増加します。

4 クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量	要防除 ほ場率 平年比	発生消長の一例			
	平年比	程度		5月			
				4月 下旬	上旬	中旬	下旬
やや多	—	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1 か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い予想（+）
- 巡回調査ほ場（4月第1週から第2週）では、雌成虫寄生株率17.8%（平年11.1%）と多（+）
- 巡回調査ほ場（4月第1週から第2週）では、雄成虫寄生株率7.9%（平年9.0%）と平年並の傾向（±）

4) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 4月16日現在の有効積算温度による予測式では、ふ化最盛期予測日は5月15日で平年並（亀山10年平年値 5月14日）、防除適期は5月第4半旬頃と予想されます。なお、今後の温度変化により防除適期は変化しますので、ご注意ください。
- 2) 天敵保護のために、天敵への影響が小さい薬剤を選択してください。
- 3) ふ化時期に散水により枝幹を濡らすことで歩行型幼虫の固着を防ぐ効果があります。

5 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量 程度	要防除 ほ場率 平年比	発生活長の一例			
				4月		5月	
	平年比	平年比	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬
やや少	—	小	低				

(2) 予報の根拠

- 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い予想（+）
- 2) 県予察ほフェロモントラップ（亀山市、4月第1から3半旬）では、誘殺数391.3頭（平年389.0頭）と平年並（±）
- 3) 巡回調査ほ場（4月第1週から第2週）では、ハマキムシ類巻葉数0枚/m²（平年1.3枚/m²）と少（-）
- 4) 一般ほ場では、一部において越冬幼虫が見られた（+）
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。

(3) 防除対策

- 1) 幼虫はふ化数日後に葉を2から3枚綴りようになるので、薬が効きにくくなります。ふ化直後の若齢幼虫を対象に防除してください。
- 2) 例年、越冬世代成虫の発生最盛期は5月第1半旬です。この7から15日後の幼虫ふ化期（5月中旬頃）が防除適期です。

イチゴ

1 ハダニ類

(1) 予報内容

発生量 (平年比)	発生 時期	発生量 程度	要防除 ほ場率 平年比	発生活長の一例			
				4月		5月	
	平年比	平年比	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬
平年並	—	中	普通				

(2) 予報の根拠

- 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並か多い予想（+）
- 2) 巡回調査ほ場（4月第2週）では、寄生株率0.2%（平年7.4%）と少、寄生程度0.09%（平年4.1%）と少（-）
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少から中（概してやや少）（-）
- 4) 現状の発生量は一般ほ場の結果を重視してやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量は平年並と考えます。

(3) 防除対策

- 1) ほ場によって発生にばらつきがあります。こまめにほ場を観察し、発生状況を確認してください。
- 2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。
- 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
- 4) 薬剤散布の際は、収穫前日数と総使用回数を遵守するとともに、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。

III 予報の見方

1 「予報内容」の各項目の見方

(1)発生量（平年比）

発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

(2)発生時期（平年比）

平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6
評価		早	やや早	平年並	やや遅	遅								

(3)発生量（程度）

発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きいが平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

平年ほとんど発生がないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

(4)要防除ほ場率（平年比）

防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半のほ場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

2 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

IV 気象データ

東海地方1か月予報（令和8年4月16日 名古屋地方気象台発表）

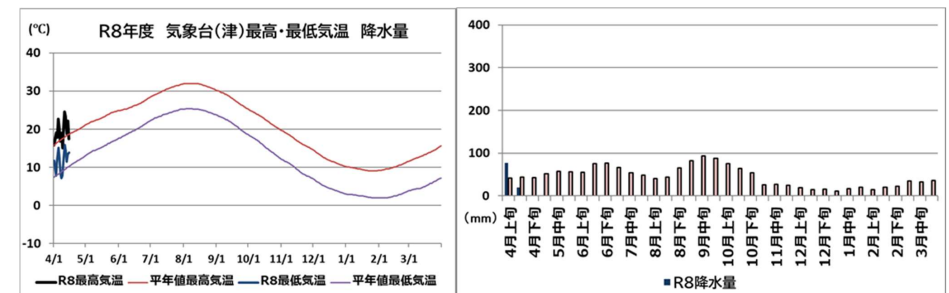
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

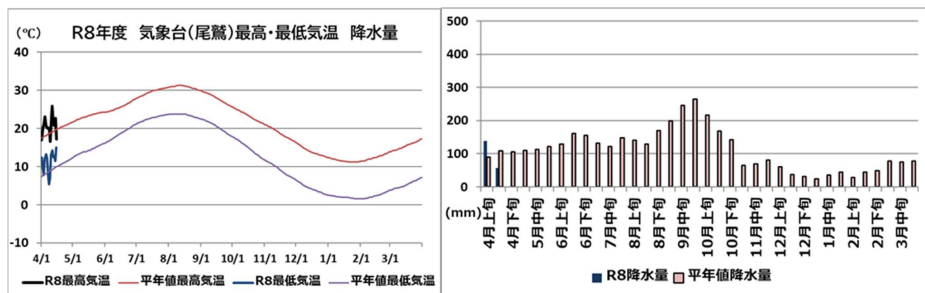
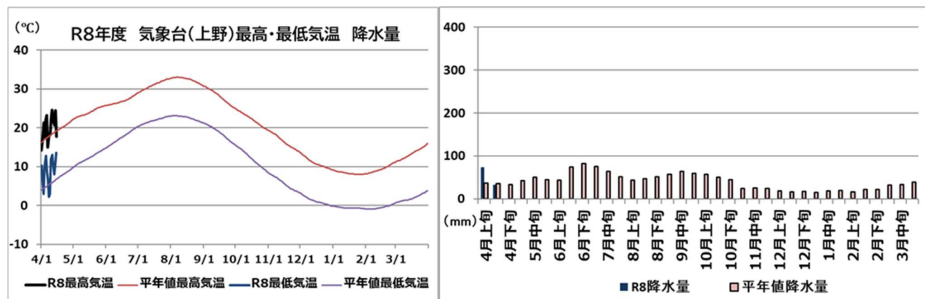
1週目 4月18日から24日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
2週目 4月25日から5月1日	天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
3から4週目 5月2日から5月15日	天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気象の日別推移

（気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成）

（4月15日まで）





V お知らせ

1 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2 発表日

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月23日(木)	(今回)	第2回	5月26日(火)
第3回	6月18日(木)		第4回	7月23日(木)
第5回	8月25日(火)		第6回	10月22日(木)
第7回	3月18日(木)			

3 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。

下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001252991.pdf>

5 メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

農林水産省の「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7 IPM（総合的病害虫・雑草管理）実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>